

## 令和2年度 山形県立高畠高等学校卒業式

### 式 辞

澄み渡る空に残雪の白き山の頂を近くに感じ、水が流れ行く音と土の香りが風に乗って運ばれ、ここ「まほろばの里」高畠にも新たな春の息吹を感じる季節が到来しました。

この佳き日に、PTA会長 高橋正利様、鍾城同窓会長 高橋正人様をはじめ、来賓の方々のご臨席の元、山形県立高畠高等学校「第六十七回卒業証書授与式」を挙行できますことは、この上ない慶びであります。ご多用のところご臨席賜りました来賓の方々には心より御礼申し上げます。



只今、卒業証書を授与しました109名の諸君、卒業おめでとう。また、これまでご家庭で大切に育て、その成長を見守ってこられた保護者の皆様、ご子息、ご息女の卒業おめでとうございます。これまでの月日を振り返れば、立派に成長したお子様の姿に喜びもひとしおのことと存じます。

卒業生の皆さん、三年前に入学した時はどんな期待と不安を持ってこの体育館に並んでいたのでしょうか。振り返ればあっという間の三年間だったかもしれません。授業や部活動、学校行事での新たな友達や先輩後輩との出会いがあり、合唱コンクール、学園祭、クラスマッチ、研修旅行など、様々な行事で思い出をつくり、日々の生活の中で仲間と切磋琢磨しながら、大きく成長してきたことかと思えます。

皆さんは、この三年間の思い出を胸に、ここで学んだ知識と学力を携え、これから新たな世界へ飛び立とうとしています。高等学校卒業という新たな人生の門出にあたり、一言、言葉を贈ります。

一昨年、令和元年10月25日付の朝日新聞の「声 voice」欄に21歳の大学生が「私は人生の『正解』が欲しい」というタイトルで、自分の想いを投稿しました。その内容はこうです。

「高校までは何に対しても『正解』りました。教科書の問題は解答ページに、取るべき行動は校則に、細かいことはすべて先生が答えをくれました。勉強して、良い大学へ行って、素敵なパートナーを見つけることが私にとって正しいことだと思っていました。

しかし、大学や社会に出ると突然、正解のない問題ばかりが降りかかってきます。何が正しいか、何が幸せか、自分で見極めろと言われます。

私なりの正しさって何だろう。幸せってなんだろう。幸せになることが人生の目標だとすれば、目標がなんなのかわからない今、どこに向かって歩けばいいですか。私は人生における『正解』が欲しいです。」というものでした。

みなさんが、「人生における『正解』とは何か。どこに向かって歩けばいいのか」と自分自身に問うてみたら、どういう答えを出すでしょうか。

確かに私たちは幸せを求めて日々生活しています。しかし、現実はというと、そんなに甘くはありません。思い通りにいくことは少なく、苦しいこと、辛いこと、思い通りにはいかないことの方が圧倒的に多いものです。コロナによる地区総体や県総体の中止、文化部の大会中止など、これまでの努力の成果を発揮する機会を奪われるという、それまで全く想像したことのない現実と直面した卒業生の皆さんには、このことがよくわかるかもしれません。本当に辛く悔しいことだったと思います。

今後の人生を歩む中でも、苦しい場面に遭遇した時、辛くて逃げだしたくなった時、都会の生活に疲れ果てた時、それでも一歩前に進まなければならない時、そんな時には是非、皆さんが三年間を過ごしたこの高畠の風景を思い出してほしいと思います。

宮城県との県境に幾重にも重なる山々を東に臨み、福島県との県境にそびえる飯豊山や吾妻連峰をはじめとする2000メートル級の山々を南に臨む高畠の広々とした田園地帯と家々。

できれば、近くの山に登り、山の頂から大空とその下に広がる大地を見渡し、そこで暮らしている人々の生活や、この土地を開き、耕してきた人々に思いを馳せて、今自分がここに立っていることのありがたさ、その奇跡に思いを巡らせてほしいと思います。

そして静かに目を閉じ、この大地で過ごした時間を思い浮かべるのです。神輿を担ぎながら、なぜか腹の底に心地よく響く祭りの太鼓の音。畑で収穫した大根やじゃがいも、トマトの味。大量に流れる汗に吹き込むグラウンドの風。目の前の一つのことを真摯に取り組んだ君たちの目に映った風景、耳や舌や素手で感じた感覚、身体全体が記憶した仲間との時間。すべてを思い起こし、明日への勇気に変えてほしいと思います。

また、長い人生のなかでは、解決の糸口さえ見つからず、途方に暮れるような問題や、目の前にある課題に押しつぶされそうになることもあるかもしれません。でも、解決策は必ずあります。自分が思っているよりも様々なやり方や、解決方法がいくつもあることを知っておいてほしいと思います。

例えば、私たちが住んでいるこの日本ですが、日本のシステムだけが正解ではありません。世界の206カ国には206の文化が存在し、206通りの違うシステムがあるわけです。

皆さんが今、18歳にして知っていることは、世の中のほんの少しのことでは限りありません。自分が暮らしている日本の中にもまだまだ知らないことがたくさんあるのです。

「カラフルな未来へ」をキャッチフレーズにしている高畠高校ですが、例えば、日本語の名前がついている色、つまり和名がある色の数はどの位あると思いますか。36色ですか。48色でしょうか。

実際にはなんと、450色以上もあるのです。「勿忘草（わすれなぐさ）」という色名も

あります。きれいな水色に近い色です。正に今日の青空のような色です。名前がついているということは、それを認識し、他と区別しているという文化の一端を示しています。今の自分が想像している以上に遥かに多くの認識が存在し、それだけ多くの考え方や方法が存在しているということをお覚えておいてください。考え方がたくさんあるということは解決方法もたくさんあるということです。

そして、同じように、いのちの数だけの生き方があり、人生があります。

さて、先ほど紹介した大学生の投稿が反響を呼び、その後様々な意見が寄せられました。いくつかの意見が紙面で紹介されましたが、その内の一つ、同じ大学生で22歳の方の意見は次のものでした。

「正解は存在するものではなくて生み出すものだと思います。『こうすれば必ず幸せになれる』という『正解』はないような気がします。また、誰かに導いてもらっても心にひっかかりがあるならば、自分にとっての幸せではない気がします。どこに向かって歩けばいいのか分からない場合には、まず自分がどこにいるのかを自問自答するしかないと思いました。私自身もあいまいですが、(投稿した)〇〇さんにそう言いたいです。」という意見でした。

「果たして人生の正解はあるのか。」

「幸せになるにはどうしたらいいのか。」

これらの問いにもいろいろな回答があるでしょう。そして、皆さんがこれからの人生で、自分なりの回答を見つけていくものだと思います。誰かの価値観で生きていくのは、あまりにも時間ももったいないものです。

これから新たな人生の一步を踏み出す皆さん。

幾度となく荒波が押し寄せてきても、時には山に登って大地と大空を眺め、いのちと人々の営みに思いを馳せ、青春を過ごしたこの三年間を思い出してください。

また時には、まだまだ気づいていないたくさんの可能性があることを思いお越し、何度失敗しても諦めずに一步先を見据えて進んでください。

結びに、皆さんを今ここに至るまで育ててくださった御家族に感謝と敬意を申し上げます。

改めて、「卒業おめでとう。 皆さんとの出会いに感謝します。」

令和3年3月1日

山形県立高畠高等学校  
校長 遠藤 淳一